

佐倉市国土強靱化地域計画（2020～2024年度）【概要】（案）

- ▶ 国土強靱化とは、いかなる災害等が発生しようとも、人命の保護が最大限に図られ、社会の重要な機能が致命的な障害を受けず、被害を最小化し、迅速に復旧復興する、「強さ」と「しなやかさ」を併せ持った安全・安心な地域・経済社会を構築すること。
- ▶ 大規模地震、巨大化する台風や局地的な集中豪雨による風水害や土砂災害など、様々な大規模自然災害等が発生したとしても、市が機能不全に陥らず、市民の生命及び財産を守るために、本市の国土強靱化に関する指針として本計画を策定する。

1. 「基本目標」の設定

国強靱化計画の基本目標を踏襲し、4つの基本目標を設定。

- ① 人命の保護が最大限図られること
- ② 市及び社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持されること
- ③ 市民の財産及び公共施設に係る被害の最小化
- ④ 迅速な復旧復興

2. 「事前に備えるべき目標」の設定

基本目標をより具体化したものとして8つの事前に備えるべき目標を設定。

- ① 大規模自然災害等が発生したときでも人命の保護が最大限図られる
- ② 大規模自然災害等発生直後から救助・救急、医療活動等が迅速に行われる
- ③ 大規模自然災害等発生直後から必要不可欠な行政機能を確保する
- ④ 大規模自然災害等発生直後から必要不可欠な情報通信機能を確保する
- ⑤ 大規模自然災害等が発生しても経済活動（サプライチェーンを含む）が機能不全に陥らない
- ⑥ 大規模自然災害等発生後であっても、生活・経済活動に必要な最低限のライフラインを確保するとともに、これらの早期復旧を図る
- ⑦ 制御不能な二次災害を発生させない
- ⑧ 大規模自然災害等発生後であっても、地域社会・経済が迅速に再建・回復できる条件を整備する

3. リスクシナリオの設定

国基本計画及び県地域計画を参考に、地域で想定される自然災害全般を見据え、起きてはならない最悪の事態として、34のリスクシナリオを設定。

＜主なリスクシナリオ＞

- 大規模地震等に伴う住宅・施設・橋梁等の倒壊や、住宅密集地等における火災などによる死傷者の発生
- 大規模台風や異常気象等に伴う豪雨、強風、広域かつ長期的な市街地等の浸水などによる死傷者の発生
- 大規模地震・台風等に伴う土砂災害による死傷者の発生 他31

4. 脆弱性評価

34のリスクシナリオごとに、行政機能や保健・医療、都市・交通、産業といった施策分野において、既に取り組んでいる市の施策を整理し、不十分な対応がないかなど脆弱性を評価。

＜主な脆弱性評価結果＞

- 情報収集伝達体制の強化が必要
- 避難場所の充実が必要
- 迅速な復旧・復興及び二次被害防止に向けた体制整備が必要
- 国・県・他自治体・地域住民・民間事業者等との連携が必要
- ハード・ソフト対策の効果的な組み合わせが必要 等



参考：国土強靱化のイメージ

5. リスクシナリオへの対応策

脆弱性評価結果を踏まえ、リスクシナリオ・施策分野別に対応策を検討。

＜主な対応策＞

- 情報収集伝達体制の強化
基盤的防災情報ネットワークや県防災情報システムの活用、情報手段の多様化に向けた更なる検討、浸水エリアの早期発見伝達体制構築の検討、災害時外国人サポーター養成 等
- 避難場所の充実
自立分散型エネルギー設備の導入、飲料水等の備蓄充実、民間等と連携した物資等の調達体制確保、マンホールトイレ整備 等
- 迅速な復旧・復興及び二次被害防止に向けた体制整備
電気設備周辺の樹木等処理や停電時電力確保などに係る電力事業者等との連携推進、応急危険度判定士確保、インフラ等の迅速な復旧・復興に備えた地籍調査による土地境界等の明確化、農家への農業共済・収入保険等加入促進 等
- 国・県・他自治体・地域住民・民間事業者等との連携推進
災害時受援計画の策定、災害時応援協定や包括連携協定の維持及び締結推進 等

＜関連するSDGs＞

